

	NPO 法人 京都観光文化を考える会 都草だより	第51号 発行人：小松香織 編集人：西野嘉一 発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 電話：075-451-8146
---	---	--

■大覚寺「戊戌開封法会」ご案内をお手伝い



大覚寺で10月1日から2カ月間「戊戌（ぼじゅつ）開封法会」が行われました。この法会は、平安時代に嵯峨天皇が写経された般若心経を納めた心経殿が60年に1度開かれるというもので、参拝される全国末寺の皆様を案内いたしました。

嵯峨天皇が写経された年と同じように今年は地震、大雨、台風などの災害で大覚寺内も大木が倒れたり、建物にも被害が多く出ていました。さらに、初日前日にも台風接近が予想され、受付や拝観場所などぎりぎりまで調整される状況でしたが、関係者皆様と連携を密に取りながら当日を迎えることができました。

幸いこの日は好天に恵まれ、清々しい中で心経殿の扉を開ける法要が行われました。

私は九州からお越しになられた末寺さまを担当しました。法要終了後、御影堂（心経前殿）でご焼香、心経殿で嵯峨天皇のご写経の拝観、五大堂、宸殿などを案内いたしました。

事前に資料で十分に説明していただきましたので、安心してご案内ができ、末寺の皆さんからは「大覚寺の方ですか？」と間違えられることもありました。お帰りの際に「とても良かった」とご満足いただけたようでした。私も厳かで貴重な法要を拝見することができ、お堂に響く読経もとても心に染み入りました。そして嵯峨天皇などのご宸翰の写経に感動し、私も写経を納めて帰りました。（会員 宮澤 佳代）



■第25回文化交流会「重陽の節句と烏相撲について」に参加して



9月7日、文化交流会で上賀茂神社の藤木権禰宜から「重陽の節句と烏相撲について」のお話を聞く機会が得られた。これは9日に行なわれる神事の背景の理解と本番を参観する動機づけともなった。この神事のご祭神の祖父・賀茂建角身命の化身といわれる八咫鳥の故事と邪気を払う奉納相撲にちなむと伝えられる。カモ社の創建は社伝とほうらはらに、上賀茂神社が先であり祖父を祀る下鴨神社が後というのも面白い。

本殿参拝の際には、珍しい影狛（本殿の扉に描かれた銀色の狛犬と金色の獅子）を近くで鮮明に拝見することができたのは貴重な機会だった。また高倉殿では競馬会の馬具や神饌の食器などの神宝が公開されて、中でも神馬の絵画が印象的だった。

講演、参拝の後は場所を変えて旬の京野菜提供の店「萬川」で昼食を頂いた。地元産の京野菜のフレッシュな味をかみしめながらシャキシャキとした歯触りに新鮮な野菜に対する認識を新たにすることができた。京のおばんざいをゆっくりと味わいながら、会員同士の自己紹介や近況報告などで、大いにコミュニケーションを深めることができたのは有意義であったと思う。世話役の方に厚くお礼を申し上げる次第である。（会員 蒲田 皓兵）

■ガイド研修「声のおもてなし」

今回「声のおもてなし」をテーマにしたガイド研修を受講する機会に恵まれ、「声磨き」の大切さを学びました。まず、講師の元NHKキャスター鈴木愛悠さんの姿勢の良さ、そして、話される時の笑顔に惹きつけられました。初めの挨拶は「明るく、笑顔で!」、おもてなしの始まりです。



松井 和子会員と鈴木 愛悠先生

この研修では

- 1、マイク使用の時も声は大きく
 - 2、相手に伝わっていないのは、伝えていないのと同じ
 - 3、相手から聞き返されないように
- など、会話時のチェックポイントを教えて頂きました。



講師 鈴木 愛悠先生

ふだん私は、ガイドをする時には「こんにちは」の一礼の後、お客様に向かって左から右へ顔を動かし、フルネームで名乗り、「どうぞよろしくお願ひいたします」と、もう一度ゆっくり一礼します。最初の頃は自分を落ち着かせるための工夫でしたが、自分のリズムを決めていると安心感があります。今回の研修を受けて初対面のお客様に心地良いと感じていただける「心配り」をめざし、さらに一期一会の出会いを大切にしていきたいと思ひます。印象に残ったのは講師の目力と素敵な笑顔。実践的な内容で声の大切さを再確認することができ、楽しく有意義な時を過ごす事ができ感謝です。(会員 松井 和子)

■東京支部 第1回フィールドワークイベントの開催



10月27日、東京支部第1回フィールドワークイベントをに開催しました。現在、東京支部では年1回、オリエンテーション(屋内)を開催し、首都圏在住の会員の皆さんの交流の場を設けています。さらに会員の皆さんに参加して頂ける機会を増やすために、フィールドワークイベントを開催する事になりました。



になりました。

第1回目となる今回は、六本木のサントリー美術館で開催された「京都・醍醐寺 真言密教の宇宙展」を観に行きました。当日は、会員とそのご家族あわせて8名の参加となり、約2時間ほどの自由観覧を行いました。会場には、上醍醐薬師堂の本尊である「薬師如来および両脇侍像(国宝)」や快慶作「不動明王坐像(重文)」など、国宝、重要文化財に指定されている仏像や仏画が展示されており、その他にも三宝院の襖絵「柳草花図」や俵屋宗達の「芦鴨図衝立」なども展示されていました。何れもとても貴重なものばかりで、大変有意義な時間を過ごす事ができました。

観覧終了後は、展覧会の感想や各自の近況、京都に関する話題などで大変盛り上がりましたが、あっという間に終了時間を迎え、初めてのフィールドワークイベントを無事に終了する事ができました。(会員 加藤 博賢)